



ウトナイ湖通信

No.163

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

和光中学校の学生さんたちが職業体験！

10月20日(金)、苫小牧市立和光中学校の2年生4名が当センターを職業体験で訪れました。体験したのは、主に傷病鳥獣の救護活動。まず、「救護」についてレクチャーを受けた学生さんたちは、傷病鳥獣の餌やり、体重測定など、日々の健康管理や、治療室とリハビリケージの清掃等の衛生管理を、当センターの獣医師や救護員と一緒に行いました。初めての経験に関わらず、皆さんには約6時間という長丁場の職業体験に一所懸命に取り組んでいただきました！お疲れ様でした！



トビへの給餌体験

「自然案内ボランティア講座」を開催しました

「水鳥のことを伝えよう」と題し、11月12日に行いました。この時期にウトナイ湖で見られる水鳥(特にカモ類とハクチョウ類)をテーマに、その生態や観察する楽しさを来館者に伝えてみよう、という講座です。

水鳥についてのレクチャーを行い、野外でまずは実際に水鳥を観察。その際、ゲーム感覚で楽しめる「ハクチョウのしぐさビンゴ」を通じ、水鳥の行動に注目しました。自然案内の意義や役割についてのレクチャー後、午後は講座参加者がガイド役となり、当センターに来館された方を相手に望遠鏡の使い方を説明するなど、自然案内のボランティア活動を体験いただきました。

参加されたお二人は、後日、当センターのボランティアに登録し、活動を続けられる予定です。この講座は3月にも開催します。どうぞご参加ください。



来訪された方を案内する参加者

湖岸の巡回を実施しています



これまでのところ、特に異状はない

先月、散策中の方からヒグマの目撃情報が寄せられ、数日間にわたり、自然観察路を通行止めにする措置を取りました。また、昨シーズンに続き、今季も高病原性鳥インフルエンザの野鳥への感染が確認されています。こうしたことから、現在、通常行っている湖岸巡回の実施回数を増やし、監視を強化しています。





【自然観察路情報】

2017年11月9日(木) 10:00~12:00

観察された生きもの

《野鳥》

ヒシクイ、ダイサギ、トビ、オジロワシ、コゲラ、アカゲラ、ハシブトガラス
ハシブトガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、ゴジュウカラ、ハクセキレイ、マヒワ

《植物》

ユウゼンギク(花)、ニシキギ、ズミ、ツルウメモドキ、カンボク、イボタノキ
ケヤマウコギ、カラコギカエデ(実やタネ)

《昆虫》

オビカレハ(卵)



【水鳥カウント調査結果】

2017年11月16日(木) 15:00~16:00

観察された水鳥、ワシ・タカ類 * ()内は個体数、(+)は「以上」の意味、(±)は「前後」の意味

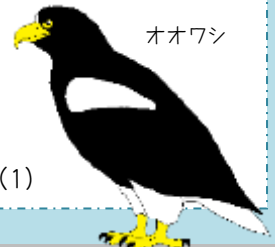
ヒシクイ(1)、マガン(868±)、コブハクチョウ(12)、コハクチョウ(11)、オオハクチョウ(20)

ヨシガモ(17)、ヒドリガモ(25)、マガモ(103±)、オナガガモ(10±)、コガモ(5)

ホシハジロ(1)、スズガモ(7)、ホオジロガモ(9)、ミコアイサ(2)、カワアイサ(19)

ウミアイサ(1)、ハジロカイツブリ(2)、カワウ(4)、ダイサギ(7)、オオバン(36+)

トビ(2)、オジロワシ(3)、オオワシ(1)、ノスリ(1)、種不明カモ類(54±)、種不明ウ類(1)



12月の自然予報

・オオワシを11月12日に今季初確認しました。定着する個体がいれば、これから4月上旬まで観察できるでしょう。

・山野の冬鳥は、ハイイロチュウヒ、マヒワ、キクイタダキ、ツグミを確認。ベニヒワの出現に期待しましょう。

・マガンは越冬地へ向けて旅立ったようで、姿が見られなくなりました。再会は3月までお預けです。

・食べられずに残ったツルウメモドキの実が目立ちます。チョウセンゴミシの実は水分が抜け、ドライフルーツのようになっています。

・葉を落とした枝先には、樹木の種毎に形が異なる冬芽がついています。

・卵やさなぎなど、昆虫の冬越しの様子が観察できるでしょう。

・冬毛に身をまとったエゾリスの姿が見られるかもしれせん。



ドライフルーツ化したチョウセンゴミシの実



成虫のまま冬を越す、その名もオツネン(越年)トンボ

【ホオノキ(冬芽)】

ウトナイ湖周辺で、おそらく一番大きな葉を持つホオノキ。葉を落とした後の枝先に見られる冬芽(来春に花や葉を出す)も大きく、形はまっすぐで、大人の小指のようです。同じ仲間のキタコブシの冬芽が柔らかな毛で被われているのに対し、こちらの表面はツルツとしています。



* 当センターが開館してから15周年を迎える今年はそれにちなんでクイズを出題していきます！
あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 傷病鳥獣の救護施設でもある当センター。2002年に開設後、当センターへ運び込まれた「原因」のうち、最も多かったのは次のどれ？

(あ) 窓ガラス等への衝突



(い) 船舶等から流出した油による汚染



(う) 釣り針や釣り糸の誤飲



答えは最後のページにあるよ。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をみなさまに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

オオタカ

体重 500g



現在、ケージ内にてリハビリ中

2017年 8月 29日

道南地方の某所で、飛べずにいたところを発見、保護される

8月30日 当センターに搬入。右翼が負傷しており、触診にて骨折が認められた。市内の動物病院でレントゲン検査を実施。右翼の橈骨(とうこつ)と尺骨(しゃくこつ)が骨折しており、直ちに整復手術を行った。

9月13日 レントゲン検査を行う。経過良好。

9月20日 髓内に入れたピンを抜去する処置を行い、飛翔訓練を開始した。現在もりハビリケージ内にて飛翔訓練を継続中。

オオタカ (タカ目タカ科)

北海道では一年を通して観察される種ですが、秋になると多くが暖地へ移動するため、厳冬期には少なくなります。平地から山地の森林、農耕地、原野などで生息し、主に小型鳥類を捕食しますが、同属のハイタカや、エゾリスやエゾキウサギのような哺乳類を捕えることもあります。また一方で、クマタカやフクロウに捕食されてしまうこともあります。

イベント情報

小鳥の巣箱作り

日時：2018年1月13日(土)10:00~12:00

参加費：無料

対象：どなたでも（小学生以下保護者同伴）

定員：先着10組（1組1個作成）

申込み：12/5から

電話(0144-58-2231)または直接来館で

持ち物：軍手、のこぎり（貸出可）

かなづち（貸出可）、ドライバー（貸出可）

*材料はこちらで用意します。



お知らせ

年末年始休館日のお知らせ

12月29日(金)~1月3日(水)



世界湿地の日記念イベント

ウトナイ湖もそのリストに登録されている「ラムサール条約」は、イランにある同名の都市で1971年2月2日に締結されました。1976年からは毎年この日を「世界湿地の日」とし、本条約の目的や意義について広く伝える活動が世界各国で行われており、当センターでも以下のようなイベントを予定しています。

☆冬を楽しむミニツアー

☆冬の湿地をスノーシューで探検しよう！

☆湿地クイズラリー

詳細は次号でお知らせします。

どうぞお楽しみに。



市民ギャラリー

私たちが出会った野鳥との瞬間

日時：12月2日(土)~12月24日(日)

展示：Young bird creator「North Wing」

◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。

鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。

また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

【利用案内】

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

入館無料 / 開館時間：午前9時~午後5時 / 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

